

<講演> 令和2年7月豪雨 被災地の避難所について ～避難所で実際に生じた課題や対応～

<講師> 有浦 隆

(熊本県危機管理防災特別顧問 元危機管理防災企画監)



自身の災害対応を踏まえ、令和2年7月の熊本豪雨での事例を紹介しながら、災害前の事前準備や住民に早めの避難を促す重要性についてご説明いただいた。

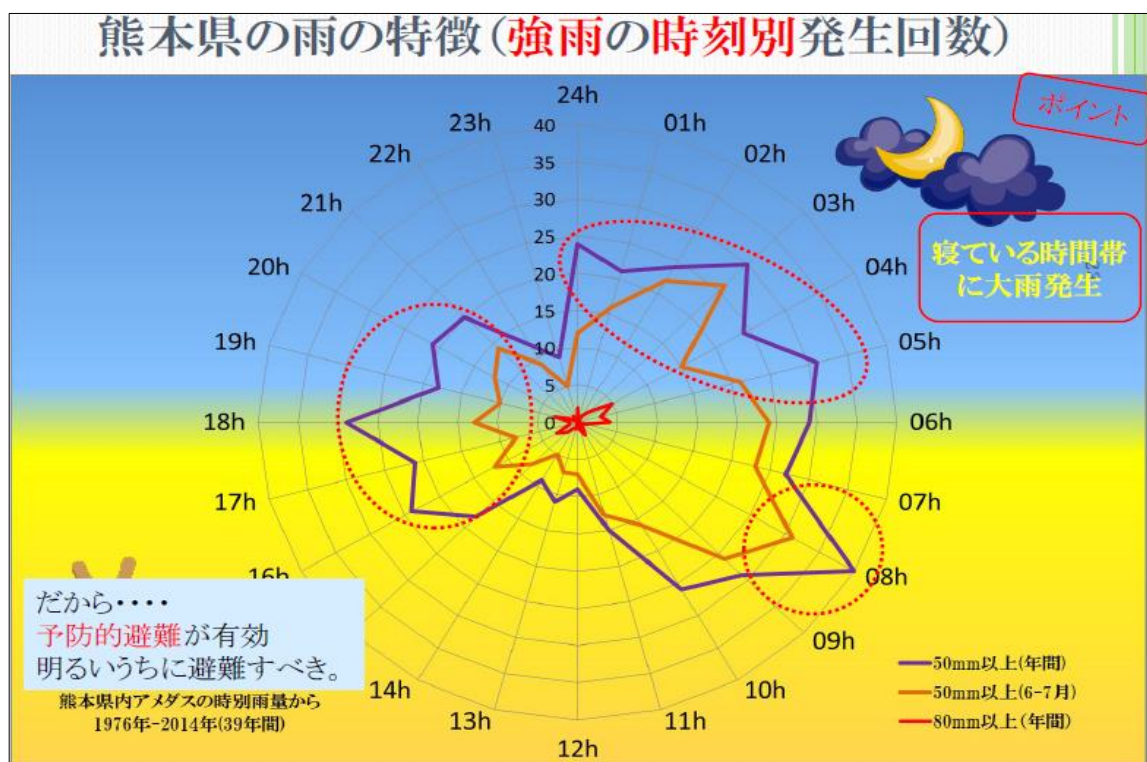
●防災の考え方

防災の本質は、**予防**にあり、

予防・事前準備 (ex.避難行動の確認) に勝る対策は無い

●熊本県防災の考え方

熊本県の気象的特性を知り、対策を考える「特性分析」という手法を用いて、県民を**災害が起こりやすい場所と時間から退避させる予防的避難**の徹底を行う



●令和2年7月豪雨における課題とその対応について

【課題①】 検温・動線について

スペースの準備（陽性者、濃厚接触者、発熱者、一般者）

と動線確保が出来ておらず、検温せずに入るケースが多かった



【対応】

あらかじめ避難所を運営する住民リーダーと組織の確保を行い、
避難所の受付等の体制整備を行うことが重要

【課題②】 避難所における日用品の不足

どれだけ補充しても、消毒液やタオルなどの物資が不足した



【対応】

避難所での事前の大量準備や、避難者自身による家族構成や健康状態等に応じた非常用持ち出しの準備が必要